

文部科学省委託事業

2019～2021 年度

【介護・保育分野における異文化間異世代間の交流促進の
ための分野横断型リカレント教育プログラムの開発事業】

2021 年版

ダイバーシティ・マイスター・ワークブック

領域「異世代間交流プログラム」編



監修：川廷 宗之(職業教育研究開発センター長)

編著：異世代間交流部会

本ワークブックは、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、学校法人敬心学園が実施した令和3年度「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」の成果物です。

はじめに

この教材は、専門学校卒業生向け、リカレント教育（卒業後の生涯学習）で使用する教材の試行版です。

私たちが目指したのは、次の3点です。

- ① 介護・保育の現場職員の皆さんが容易に理解できること。
- ② 学習によって感性を刺激し、何らかの気づきが得られること。
- ③ ダイバーシティ（多様性）に係る実践への動機付けを促進すること。

そこで、次のような「視点」を持って、このワークブックや動画、ハイブリッド型の講座の受講、というリカレント教育システムの流れを体験していただき、全体の評価をしてみてほしいと考えています。

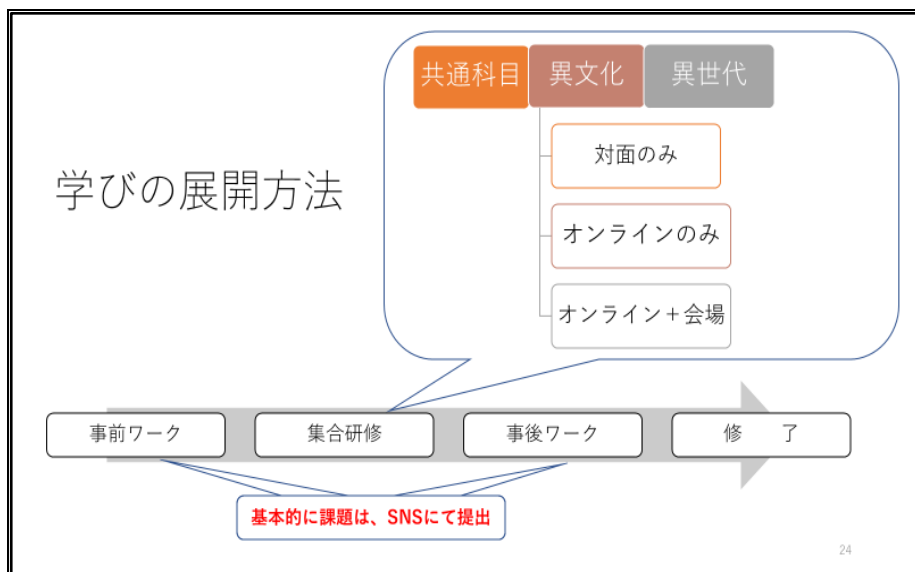
- ① この教材は、介護・保育領域のリカレント教育のためのプログラムとして取り組みやすい、楽しい！と思えるものとなっているのだろうか。
- ② 介護・保育領域におけるリカレント教育のための教材として妥当なものとなっているのだろうか。
- ③ この教材は、開発上の留意事項や倫理的配慮、コンプライアンス（守るべきこと）に抵触しているようなことはないだろうか。
- ④ 介護・保育領域におけるリカレント教育のために開発した、このプログラムが、その趣旨に即した「学びのプロセス」として妥当なものとなっていたか。

事前・事後のアンケートで率直なご意見をお聞かせください。

2021(令和3)年12月 主催者

学びの進め方

この教育プログラムの全体像は、下図のように構成されています。



プログラム全体は、【共通・異文化・異世代】領域として構成されています。ここで学ぶ【異世代】領域には、2つの科目（「理解」と「実践」）があります。以下ではそのうち、「理解」「実践」科目を学ぶための学びのノートを示します（以下「ワークブック」）。

「理解」科目並びに「実践」科目は、共に5つの柱からなり、90分4コマで学びきることを目指しています。

「ワークブック」は、各柱の一つごとに「学習目標・動画のポイント・キーワードとその意味・解説・ワーク（演習課題）」となっています。動画を見る前に、このワークブックの該当箇所をひと通り通読し、事前ワークである「ワーク1」を行い、SNSに登録しましょう。

学びの目標

この科目で学んでほしいことは、次の通りです。

異世代交流理解：

- 1) 介護、保育、その他の分野で実践されている様々な形の異世代間交流のバリエーションを知る。
- 2) 異世代間交流を行うことが、高齢者や子ども、そこに関わるスタッフにとってどのような意義があるのかを理解する。
- 3) 異世代間交流を行うことにより、関わる人の心情や行動がどう変化していくのか、また交流に参加する人々の気持ちや思考を理解する。

異世代交流実践：

- 1) 異世代交流を効果的に実践するために必要なことを検討し、行動に移すための計画を練ることができる。
- 2) 異世代間交流を効果的、継続的に実践できるための環境・背景を理解する。
- 3) 自分の職場で実践するために必要なことを点検し、今から始められることを考えられる。
- 4) 実践のための留意事項をマニュアル化し、職場に紹介することができる。

学びの目標へ到達するためのプロセス

科目の各節には、それぞれ「2～3」のワーク(演習課題)が用意してあります。ワークを行い、自らの到達点を確認するために、節ごとに「学習目標」があり、「ワークを行うと、ここ(学習目標)に到達できるのだな」と、関係づけを行いながら、学びを続けてください。

	節	学習目標	ワーク
異世代交流理解	1	1) 異世代間交流における介護の理念①利用者本位、②選択の尊重、③自立支援を理解する。 2) 高齢者と子どもたち、職員の心のアルバムにどのようなページが増えたのかを知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者は、子どもたちと同じ時間を過ごして、どのようなことを感じていたと思いますか？ ・ 子どもたちは、高齢者との触れ合いを繰り返すことで、どのような成長があると思いますか？ ・ 新しい発見
	2	1) 異世代間交流を長く続けていくことで、施設と人と地域との間で、どのような変化が生まれるのかを理解する。 2) 異世代間交流を長く続けていくための「コツ」は何かを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異世代間交流が「地域の文化」になる、という感覚についてどのように思いますか？ ・ 異世代間交流が長く続くために、必要なことは何でしょう。 ・ 新しい発見
	3	1) ダイバーシティという「誰も」とは誰のことなのかを理解する。 2) 「誰も」が安心し、自由に、居心地良くいられる場所について、理解する。 3) 安心・自由・居心地の良さを提供してくれる場所の特徴について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ダイバーシティという「誰も」とは誰のことでしょう。 ・ あなたの幼い頃の「居場所」はどこですか。そこには誰(人でも、ぬいぐるみでも、ペットでもOK)がいましたか。 ・ あなたが「居場所」をつくるとすれば、どんなことに気をつけますか。 ・ 新しい発見
	4	異世代間交流の多様な形、意義を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異世代間交流で、直面した(する)と思う「壁(ハードル)」には、どんなことがあるでしょう。箇条書きで書いてください。 ・ あなたが直面した「壁(ハードル)」を、あなたはどのように乗り越え(飛び越え)ようと思いましたか。 ・ 新しい発見
	5 ①	1) 異世代間交流で変化する「心情」「行動」の過程を理解する。 2) 異世代間交流に参加する人々の気持ちや思考を理解する。 3) 保育・介護スタッフが「異世代間交流は必要」と感じる理由を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動画を見て感じた「子どもや高齢者の『変化』」についてメモしましょう。 ・ あなたが企画者として「異世代間交流」を企画する場合、仲間のスタッフに企画の必要性をどのように伝えますか？ ・ 新しい発見

異世代交流実践	5 ②	<p>1) 子どもの言葉・しぐさ・態度をよく観察し、他者との関わりへの意欲や態度がいかに育まれていくのか理解する。</p> <p>2) 異世代間交流の中で子どもや高齢者が、普段と違った言葉遣いをしている姿や楽しく言葉で表現している姿から、伝え合う喜びの実際を知る。</p> <p>3) 異世代間交流に参加するすべての人々（高齢者も子どもも）が自身に対し「役割感」や「肯定感」を持つことを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 異世代間交流を通じて、子ども、高齢者はどのような気づきや感情を持ったと思いますか。声、表情、しぐさから自由に想像してみましょう。 新しい発見
	1	<p>1) 実際の保育計画に盛り込むべき異世代間交流の具体場面イメージを持つ。</p> <p>2) 異世代間交流を保育計画に位置づけ、当日を迎えるまでの手順を知る。</p> <p>3) 計画した異世代間交流を実践するにあたっての留意事項を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> あなたがイベントを担当することになり年間計画を作成する場合、4～3月の12か月間に「いつ頃に」「誰と」「どのような」異世代間交流を盛り込みたいですか？ 異世代交流を1日（9～15時迄）場合、あなたは外部機関の担当者となるような事について、事前に打合せしますか？ 新しい発見
	2	<p>1) 大規模法人の異世代間交流を知る（交流のキーワードを伝える）。</p> <p>2) これまでの学びを参考に異世代を繋ぐキーワードを自身の生活環境の中から見つける。</p> <p>3) 見つけたキーワードを元にしてどのような異世代交流が可能か計画することが出来る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の職場を取り巻く環境（ハード面・ソフト面）から抜き出したキーワードを元にして、異世代間交流を計画してみましょう。設定は架空でも構いません。 子どもたちは、高齢者との触れ合いを繰り返すことで、どのような成長があると思いますか？ 新しい発見
	3	<p>1) 専門職を目指す学生世代と高齢者の多様性を知る。</p> <p>2) 生活と社会的背景の違う若者と高齢者とが相互に分かり合えるための地域性の配慮・尊重について理解する。</p> <p>3) 若者と高齢者、地域性の尊重の視点から、この世代間交流におけるメリット・デメリットを整理する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> あなたのお住まいの地域で、ブリは成長に伴い、何という名称に変化していきますか？あなたの街の「鰯（ブリ）の呼び名」を挙げてみましょう。 動画には、いくつか方言が出てきます。富山県氷見市と標準語を例示します。表の右側に、あなたが紹介したい「方言」を書きとめてください。 次の表を参考に、あなた自身の「文化」を振り返って、あなたの知らないあなたらしさを発見し、周りの方々に話してみましょう。 あなたの立場から、地域性の尊重の視点からみた世代間交流におけるメリット（左側の枠）・デメリット（右側の枠）を書き出してみましょう。 新しい発見
	4	<p>1) 交流プログラム立案にあたって必要なことを具体的に考えることができる。</p> <p>2) 交流プログラムの実践のための準備を</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の施設で交流に取り組みたいと考え、同僚や上司、協力者に話そうとした時に何を準備する必要があると考えましたか。

		<p>具体的に考えることができる。</p> <p>3) 自分の職場で実践する時のイメージがもてる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交流プログラムを実践するにあたって貴方が考えた一番必要なことは何ですか。 ・ 新しい発見
	5	<p>1) 異世代間交流をするうえでのリスク管理のプロセスについて理解を深める。</p> <p>2) リスク管理を行い、異世代間交流の実践ができるようになる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の施設で異世代間交流プログラムを実施するうえで一番心配なリスクを記入しましょう。【リスクの特定】 ・ 一番心配なリスクがどこに位置づいているか○をつけて評価しましょう。【リスクの分析・評価】 ・ 一番心配なリスクに対してどのように対応すればよいかを仲間と話し合ってみましょう。【リスクの対応】 ・ 新しい発見

目 次

はじめに	3
異世代理解	10
1 節 「出会わない!？」交流	10
2 節 地域との交流の重みと豊かさ	12
3 節 はじめての仕事、広がる支援	14
4 節 ダイバーシティ実践の意義	16
5 節 実践による変化と見える化①	19
実践による変化と見える化②	21
まとめ	23
異世代実践	24
1 節 世代間交流の PDCA	24
2 節 実践マネジメント・虎の巻	26
3 節 郷土愛的インクルージョン	28
4 節 実践のためのチェックリスト	31
5 節 クイズで分かる「リスク管理のプロセス」.....	35
まとめ	37
学びの自己チェック	38

ぼくと一緒に
旅しよう



異世代交流の旅人：ダイちゃん

(オリジナルキャラクター)

異世代交流理解

1節 「出会わない！？」交流

確認日／

動画視聴日／

演習取組日／

学習目標

- 1) 異世代間交流における、介護の理念（①利用者本位、②選択の尊重、③自立支援）を理解する。
- 2) 高齢者と子どもたち、職員の心のアルバムにどのようなページが増えたのかを知る。

動画のポイント



- ① 出合いの場面での高齢者と子どもの表情・目線
- ② 感染予防への配慮
- ③ 高齢者と子どもが持つ優しさ、心の温かさ、マナー、いたわりの気持ち
- ④ 高齢者が見つける自分の役割・生きがい・普段の生活の意欲
- ⑤ お別れのときの高齢者と子どもの様子



キーワードとその意味

優しさ、温かさ・・・人生に歴史を刻んできた高齢者の強い優しさ。損得勘定のない子どもの相手を思いやる優しさ。

マナー、いたわり・・・相手が気持ちよくすごせるような礼儀。

楽しみ、元気、意欲、生きがい、役割・・・心が前向きになり積極的に行動につながる

解説・・・学んで欲しいこと

【介護の理念】

- ① 利用者本位・・・高齢者の心の動きをみて、高齢者が本当に大切にしたいもの（大切にしたい心）とは何なのか理解します。
- ② 選択の尊重・・・高齢者の選択の自由を尊重します。
- ③ 自立支援・・・高齢者の精神的自立を促します。

【高齢者と子どもたち、職員の心のアルバム】

人は一生のうちに多くの人と出会い、表現する人あるいは表現される人と、相互に感情の作用をし合うことなどで、精神的または感覚的な生きた証のような心のページが増えていきます。異世代間交流では、高齢者と子どもたち、職員の心に何色ものページが増えていきます。

【異世代間交流のレジリエンスと自由度、それに対する留意事項】

元気な子どもたちと虚弱な高齢者が関わる時は程良い柔軟性や自由度が必要ですが、以下のことに注意が必要です。

- * けが・感染防止のリスクマネジメント
- * 双方の行動に制限がないように、さりげない距離感を持ち見守ること
- * コミュニケーションが苦手な高齢者と子どものフォロー
- * 交流終了後のフィードバック



ワーク

<ワーク1>

高齢者は、子どもたちと同じ時間を過ごして、どのようなことを感じていたと思いますか？

<ワーク2>

子どもたちは、高齢者との触れ合いを繰り返すことで、どのような成長があると思いますか？

新しい発見



異世代交流理解

2節 地域との交流の重みと豊かさ

確認日／

動画視聴日／

演習取組日／

学習目標

- 1) 異世代間交流を長く続けていくことで、施設と人と地域との間で、どのような変化が生まれるのかを理解する。
- 2) 異世代間交流を長く続けていくための「コツ」は何かを理解する。

動画のポイント



次のような視点と疑問を持って、
動画を見てほしい。

- ① 園長って、どんな人だろう。
- ② なぜ 40 年も仕事が続けてこられたのだろう。
- ③ なぜ子どもが卒園した後も、卒園児の親・保護者は、園を応援しているのだろう。
- ④ この園に勤めているとしたら、私は何が出来るのだろう。



キーワードとその意味

【ダイバーシティの伝承】

保育の現場から始まる「街づくり」。それが有機的に展開していくと、長い歴史の中で「施設と人と地域」がつながっていくという相互作用が起こります。

【ダイバーシティの人財】

園児は卒園していくけれど、その親・保護者は卒園されません。園長など施設が入園の時に保護者に伝えているメッセージ・園児が卒園しても切れない関係性が、「親が主役になれる機会」を提供し、長くつながっていくきっかけを作ります。そうしたメッセージを受け止めた卒園しない親・保護者が【人財】となり、園にとっての支援者となるのです。

解説・・・学んで欲しいこと

- 1) 異世代間交流をはじめた園長の思いを「素直に」受け止めてみてください。
- 2) 異世代間交流の「コツ」は、職員側で「核になれる人」がいることだけでなく、保護者側（地域）に核になってくれる人財を作れるかどうかポイントになります。交流を単発で終わらせず、異世代間交流が長く続く「地域の文化」（地域のお祭りのようなもの）として、続けていけるような仕掛け作りが大切です。
- 3) 通常業務以外のイベント調整は、職員の負担になることもあるでしょう。また、職員からすると「やらされている感覚」が生じてしまうこともあるでしょう。そのような時、「もうすぐ〇〇の時期だね！」という地域の人財の一言で、職員自身が「楽しみ」を思い起こせ、「楽しみ」ながらイベントの準備ができ、能動的になることができるのです。

ワーク

<ワーク1>

異世代間交流が「地域の文化」になる、という感覚についてどのように思いますか。

<ワーク2>

異世代間交流が長く続くために、必要なことは何でしょう。



新しい発見



異世代交流理解

3節 はじめての仕事、広がる支援

確認日／

動画視聴日／

演習取組日／

学習目標

- 1) ダイバーシティでいう「誰も」とは、誰のことなのかを理解する。
- 2) 「誰も」が安心して、自由に、居心地良くいられる場所について理解する。
- 3) 安心・自由・居心地の良い場所の特徴について理解する。

動画のポイント



- ①園長の「閃（ひらめ）き」のユニークさを体感しましょう。
- ②「閃き」に「いいネ！」を出した人はどんな人でしたか。
- ③「誰も」が「居心地良く」いられる場所の特徴はどんなことでしょうか。
- ④私たちを取り巻く日常って、結構「ドラマチック」だけど、意外と「地味」。

キーワードとその意味

【駄菓子屋】現在のコンビニ。昭和の時代、子どもたちは5円玉や10円玉をもって、心弾ませ、そこを訪れた。そこには「おばさん」「おじさん」がおり、笑顔があった。会話が合った。

解説・・・学んで欲しいこと

- 1) 令和の時代、「不審者」や「無謀運転」そして「新型コロナ」によって私たちの暮らしは「孤立」の一途を辿っています。そんな中、保育園も学校も「子育て相談」や「教育相談」を掲げ、孤立しがちな親や保護者の支援を行うことが求められています。でも、そこへ行きつくまでの「壁」は高い。「駄菓子屋さん」のように気軽に、楽しく、気取らずに「集える場」が地域には必要です。それは今、「居場所」と言い換えられているのかもしれませんが。異世代間交流を「園の中」から「外（地域）」に広げていくと、「居場所」に繋がると考えられます。
- 昭和の【駄菓子屋】≡令和の【居場所】。みんなの「安心・自由・笑顔・会話」がある場と人が出会えば、まさに「異世代間交流」が生まれるのです。



ワーク

<ワーク 1>

ダイバーシティでいう「誰も」とは誰のことでしょう。

<ワーク 2>

あなたの幼い頃の「居場所」はどこですか。

そこには誰（人でも、ぬいぐるみでも、ペットでもOK）がいましたか。

私の居場所は、

です。

私の居場所には、

がいました。

<ワーク 3>

あなたが「居場所」をつくるとすれば、どんなことに気をつけますか。



新しい発見

異世代交流理解

4節 ダイバーシティ実践の意義

確認日／

動画視聴日／

演習取組日／

学習目標

異世代間交流の多様な形、意義を理解する。

動画のポイント



- ①実践することで「壁」を乗り越える
- ②異世代間交流の重要性
- ③異世代間交流の効果
- ④対象者の変化を共有する



キーワードとその意味

ダイバーシティの「壁」・・・ダイバーシティの概要や内容

多職種連携・・・介護福祉士・保育士などの専門職が連携し、協力し合う

対象者の変化・・・乳幼児と高齢者、介護と保育の異世代間交流がもたらす

表情・姿勢・行動などの変化

解説・・・学んで欲しいこと

1) ダイバーシティ（Diversity）の「壁」を乗り越える

ダイバーシティとは、「多様性、相違点、多種多様性」のことであり、「人々の間の違い」を意味します。

対象別にダイバーシティには、a. 異世代間の「壁」、b.職務執行上の「壁」、c.文化的背景に基づく「壁」、d.生活習慣に基づく「壁」、e.その他の「壁」と区分があり、重層的に存在しています。

- ①人手不足の中でダイバーシティに取り組もうとすると、「負の影響」の大きさが顕在化します。しかし、ここを乗り越えると、業務の幅が広がり、多様な成果が得られる可能性が浮上すると考えられます。
- ②ダイバーシティ化した職場は、職場外から影響を受け、職員のモチベーションを高くしていく、原動力を維持できるということになるでしょう。

2) 異世代間交流の重要性

- ①高齢者と幼児の日常的な交流を推進することが高齢者にとってメリットがあると同時に、幼児にとって教育的意義があります。
- ②子どもたちが「高齢者から『生活の知恵』や優れた技を学びつつ、高齢者を尊敬する気持ちや高齢者への理解、思いやりの気持ちをはぐくむことができます。
- ③出会いは「緊張」であっても、高齢者は「やさしい」まなざしを子どもに向け、こど

もは「いたわり」の気持ちを成長させます。それを見ている者も「ぬくもり」を感じることができます。そうした参加者皆の人間的成長を引き出すことができます。

- ④『保育所保育指針』では、「高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人と触れ合い、自分の感情や意志を表現しながら共に楽しみ、共感し合う体験を通して、これらの人々などに親しみをもち、人と関わることの楽しさや人の役に立つ喜びを味わうことができるようにすること。また、生活を通して親や祖父祖母などの家族の愛情に気付き、家族を大切にしようとする気持ちが育つようにする」を求めています（厚生労働省、2017）。

3) 異世代間交流の効果

- ①異世代間交流は、子どもが「安全・自信・自由」を得る機会を増やし、自己実現へと導くとされています。異世代間交流は、子どもの自己肯定感を向上させるのに役立つことにつながります。
- ②「子どもの社会性が高齢者との交流によって育つこと」
高齢者との交流活動によって子どもは、1)感情の分化が促される、2)思いやりの気持ちや見通しをつける力が育つ、3)コミュニケーションの力が育ちます。
- ③昭和の時代の日本における異世代間交流は、「自然」であったがゆえに、「家族・親族」の範囲で行われることが中心でした。しかし、今日の交流は、そこに留まらず第三者を介して「地域」に広がっています。つまり、「人間関係的なつながり」を「地域」に広げていく効果が期待できます。

4) 対象者の変化を共有する

一般社団法人日本事業所内保育団体連合会（2016）は、異世代間交流が生み出す影響として、子どもと高齢者の「変化」に着目し、次のような知見を示しています。

- ①人間関係が良くなることで社会力が向上し、自発性を持ち、社会参画を促進します。自分の殻に閉じこもりがちだった人が自信を取り戻し、積極的に人前に出てくるようになります。
- ②心の安定性が向上することにもない養護力、すなわち子どもを守ろうとする気持ちや相手を敬う気持ちが育まれます。独りよがりになりがちな高齢者が社会に戻ってきます。
- ③身体機能の向上と共に行動力が増し、人との交流が活発になります。他人に助けられたり助けたりすることが苦にならなくなり、通常のコミュニケーションを取り戻します。

ワーク

<ワーク1>

異世代間交流で、直面した（する）と思う「壁（ハードル）」には、どんなことがあるでしょう。箇条書きで書いてください。

<ワーク2>

あなたが直面した「壁（ハードル）」を、あなたはどのように乗り越え（飛び越え）ようと思いましたか。



新しい発見

引用文献

今井七重（2016）「世代間交流」宮嶋淳編集代表『地方都市「消滅」を乗り越える！岐阜県山県市からの提言』中央法規、p146-153.

本田恵子・岩谷由起（2016）『子どもと高齢者ふれあいのコツ オンデマンド版』学研ココファンホールディングス.

正木郁太郎・村木由紀子（2017）「多様化する職場におけるダイバーシティ風土の機能、ならびに風土と組織制度との関係」『実験社会心理学研究』57（1）、p12-28.

堀田 彩（2015）「日本におけるダイバーシティ・マネジメント研究の今後に関する一考察」『広島大学マネジメント研究』16、p17-29.

一般社団法人日本事業所内保育団体連合会（2016）『世代間交流施設の挑戦』

異世代交流理解

5節 実践による変化と見える化①

確認日／

動画視聴日／

演習取組日／

学習目標

- 1) 異世代間交流で変化する「心情」「行動」の過程を理解する。
- 2) 異世代間交流に参加する人々の気持ちや思考を理解する。
- 3) 保育・介護スタッフが「異世代間交流は必要」と感じる理由を理解する。

動画のポイント



- ① 高齢者に初めて接する子どもの表情・行動と、何回も経験している子どもの表情・行動の違い
- ② 子どもと接することに慣れている高齢者の表情・行動と、慣れていない高齢者の表情・行動の違い
- ③ 現職の保育・介護スタッフが語る“交流は必要”と感じる瞬間とは
- ④ 園児と数日間交流した高校生が語る「自らの考え」の変化

キーワードとその意味

言葉への感覚 言葉かけ 伝え合い いきいき 相づち 楽しさ 見守り

解説・・・学んで欲しいこと

- ① おじいさんおばあさんと僅かしか会ったことがない子どもの多くが、交流を重ねることにより、「怖い・不安」から、実際に可愛がられる経験を経て、「安心・いたわり」へと心情が変化してゆきます。4～5歳児になると自ら話しかけ、会話を楽しみ、会うことを楽しみに思うようになります。
- ② 子どもを我が子を育てるかのように語り掛ける高齢者、普段接していないだけに子どもとのスキンシップ・会話から涙を流す高齢者など、交流によって受ける刺激は多種多様です。
- ③ 子どもが、保育所保育指針に示されている「人間関係の発達」「社会生活との関わり」を獲得する過程を知ることにより、より質の高い交流実践へと繋がってゆきます。
- ④ 世代間交流は高齢者施設訪問以外にも小中学生・高校大学生・地域の施設や団体など多世代にわたって行われるものであるので、「いたわりの気持ち」の醸成だけでなく、子どもが「教わり、頼る気持ち」や、中高大学生が「後進を育成する気持ち」「職業の意義・やりがいの理解」をも醸成することができます。

ワーク

<ワーク1>

動画を見て感じた「子どもや高齢者の『変化』」について、メモしましょう。

<ワーク2>

あなたが企画者として「異世代間交流」を企画する場合、仲間のスタッフに企画の必要性をどのように伝えますか。



新しい発見



異世代交流理解

5節 実践による変化と見える化②

確認日／

動画視聴日／

演習取組日／

学習目標

- 1) 子どもの言葉・しぐさ・態度をよく観察し、他者との関わりへの意欲や態度がいかに育まれていくのか理解する。
- 2) 異世代間交流の中で子どもや高齢者が、普段と違った言葉遣いをしている姿や楽しく言葉で表現している姿から、伝え合う喜びの実際を知る。
- 3) 異世代間交流に参加するすべての人々（高齢者も子どもも）が自身に対し「役割感」や「肯定感」を持つことを理解する。

動画のポイント



3つの場面の動画を見て、話の内容や気が付いたことをメモしましょう。

動画① この場面は子どもと高齢者が出会った場面です。

どんな話をしていますか？（実際の会話をメモしましょう）そのほか気が付いたことがあれば書いてください。

動画② 子どもと高齢者が室内で積み木をしています。

どんな話をしていますか（実際の会話をメモしましょう）そのほか気が付いたことがあれば書いてください。

動画③ いくつかの動画が時系列に並んでいます。

最初泣いていた子どもの変化に注目して見てみましょう。
気が付いたことをメモしましょう

キーワードとその意味

言葉への感覚 言葉かけ 伝え合い いきいき 相づち 楽しさ 見守り

解説・・・学んで欲しいこと

子どもが身近な家族、友達、保育士以外の地域の人々との触れ合い、コミュニケーションをとることを楽しみ、自身の世界の広がりを感じることはとても重要なことです。このような経験の積み重ねから子どもは自身と違う立場や年齢の人々の気持ちを考えて関わるができるようになります。高齢者にとっても、子どもの姿を通じて、自身のかつての姿や経験を思い出し、懐かしむことで、普段の生活では経験できない心の揺れを感じることができます。

ワーク

異世代間交流を通じて、子どもや高齢者がどのような気づきや感情を抱いたと思いますか。声や表情、しぐさから自由に想像してみましょう。

子どもは・・・

高齢者は・・・

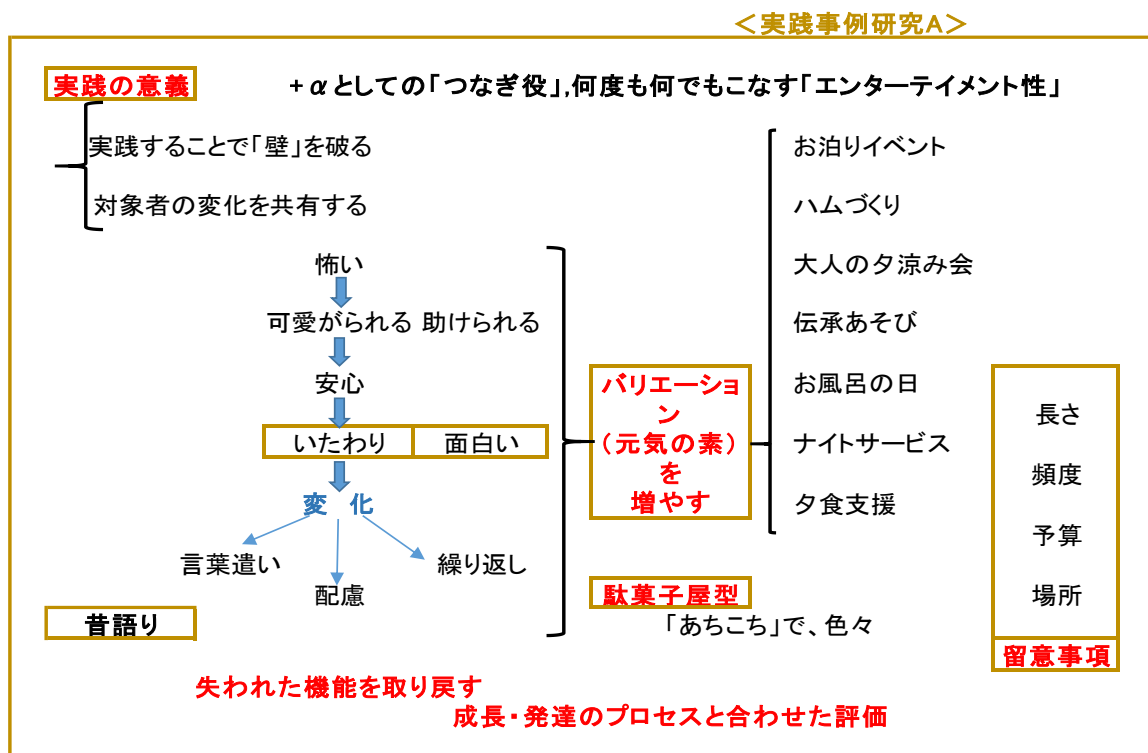


新しい発見

まとめ

この講座で皆さんに体感して頂いたのは、異世代間交流の「面白さ！」と「広がり！」です。

また、この体験を可視化してみると、次の構造図のようになります。この構造図のどの部分が「腑に落ちたのか」書き込みしてみましょう。



自分自身で気づいたこと、グループワークなどを通して聞いた、他のメンバーの意見や感想から、あなたの中で深められたことをメモしてみましょう。



異世代交流実践

1節 世代間交流のPDCA

確認日／

動画視聴日／

演習取組日／

学習目標

- 1) 実際の保育計画に盛り込むべき異世代間交流の具体場面イメージを持つ。
- 2) 異世代間交流を保育計画に位置づけ、当日を迎えるまでの手順を知る。
- 3) 計画した異世代間交流を実践するにあたっての留意事項を知る。

動画のポイント



- ① 保育園における様々な異世代間交流の種類、地域資源の積極的な活用
- ② 年間計画策定から月間指導計画・週案・日案の作成、当日までの流れ
- ③ 安全かつ目的に沿った交流を実現するための準備と行動
- ④ 異世代間交流当日の子どもの様子・気持ちの変化の各家庭への共有・伝達

キーワードとその意味

【地域資源の積極的な活用】地域ごとに、異なる自然・異年齢人材・行事・施設が存在するので、豊かな生活体験を得られるようにこれらを活用すること。

【準備と行動】来訪・往訪など異なる異世代間交流場面ごとの準備内容とタスク。

解 説・・・学んで欲しいこと

- ① 保育園における異世代間交流には、㊦高齢者施設訪問 ㊩園行事への招待 ㊭地域や町内の祭・イベントへの参加 ㊧小中学生・高校生・大学生との交流 ㊨近隣の施設・団体との交流をはじめとする様々な種類があります。



- ② 異世代間交流を実際に保育園で行う場合は、月例交流会や年一回の祭参加などを予め年間保育計画に盛り込み、連携する施設・団体との事前の打合せや、事故防止のための園外保育計画作成が必要です。
- ③ 0～5歳児が園外の施設へ出かけたり、園に子ども～高齢者までの多世代の方を招く際にはその設定場面ごとに以下のような準備と行動が必要です。

	事前アポイント 事前打合せ	感染症対策 衛生管理	受入準備 (給食・備品)	オリエンテーション (写真撮影等)	園外保育計画 (下見・安全対策)	小学校教育との接続 (職員間交流)
㊦高齢者施設訪問	●	●	—	—	●	—
㊩園行事への招待	●	●	●	—	—	—
㊭地域や町内の祭・イベントへの参加	●	●	—	—	●	—
㊧小中学生・高校生・大学生との交流	●	●	●	●	—	●
㊨近隣の施設・団体との交流	●	●	●	—	●	—

- ④ 子育ては保護者と保育園が協力して行うので、異世代間交流当日は「お迎え対応」や「連絡帳」を通じて、社会生活の関わり（注 1）の姿や、人間関係（注 2）の発達の様子を保護者に共有・伝達する必要があります。

（注 1）地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々なかかわり方に気づき、相手の気持ちを考えて関り、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる（保育所保育指針、2017）。

（注 2）高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ（保育所保育指針、2017）。

ワーク

<ワーク1>

あなたが保育士として年間計画を作成する場合、4～3月の12か月間に「いつ頃に」「誰と」「どのような」異世代間交流を盛り込みたいですか？

いつ頃	誰と	どのように	なぜ

<ワーク2>

中学生が保育園に来て1日（9～15時迄）交流する場合、あなたは中学校の先生とどのような事について事前に打合せしますか？



新しい発見（何か気づいた点をメモしておきましょう）

異世代交流実践

2節 実践マネジメント・虎の巻

確認日／

動画視聴日／

演習取組日／

学習目標

- 1) 大規模法人の異世代間交流を知る（交流のキーワードを伝える）
- 2) これまでの学びを参考に異世代を繋ぐキーワードを自身の生活環境の中から見つける。
- 3) 見つけたキーワードを元にしてどのような異世代交流が可能か計画することが出来る

動画のポイント



① これまでの幼老交流について紹介

交流の際にどのようなきっかけ（環境調整）を作って異世代間交流が実現しているのかを理解してもらう

② 異世代間交流はその他の人間関係と同様に、何らかのコミュニティなどの環境がきっかけになって開始される。法人の交流から、きっかけとなるキーワードを抜き出すワークを行う

- ・ 取り組み⇒言語（キーワード）の抜き出し
- ・ キーワード⇒取り組みのイメージと繋がるように

③ 受講生個々への問いかけ 身近な環境の中に異世代を繋ぐキーワードが無いかな

ハード面：建物・立地・地域内の設備・備品・その使い方
高齢者や子どもを取り巻く環境等

ソフト面：高齢者の特性・子どもの特性・スタッフの状況等

④ イメージの具体化

- ・ 誰のためにするのか
- ・ 何のためにするのか

交流のきっかけにつながるキーワードはないかな？

キーワードとその意味

【世代を繋げるもの】

きっかけとなるのは【場所】【こと】【モノ】など様々です。

もともと「そこ」にある環境（ハード・ソフト）を、活用したり、作り出したりすることで、新たな「つながり」の「素」が浮かび上がります。

浮かび上がってきた何かを「素」に、交流となり、繋がりが生成されます。つながりを生成する「素」となる環境の理解が必要です。

解説・・・学んで欲しいこと

異世代間交流は自然発生的に生まれていても、必ずそれを繋ぐ環境があります。身近にある環境であっても簡単に交流には結び付きません。

異世代間交流には仕掛けが必要で、推進する役割を担う人が必要となります。まずは

交流のきっかけとなるキーワードを理解しましょう。そこから具体的な交流を計画していきます。

その際に重要になるのは双方にとっての意義と目的を具体的にしておくことです。

（推進する側《＝スタッフ》のやりがいにも繋がります）また、異世代間交流は本来業務とは別の動きとなることが多く、意義や目的ははっきりしていないと、周囲の理解を得られないことが多いです。

ワーク

<ワーク1>

自分の職場を取り巻く環境（ハード面・ソフト面）から抜き出したキーワードを元にして、異世代間交流を計画してみましょう。設定は架空でも構いません。

<ワーク2>

子どもたちは、高齢者との触れ合いを繰り返すことで、どのような成長があると思いますか？



新しい発見（何か気づいた点をメモしておきましょう）



異世代交流実践

3節 郷土愛的インクルージョン

確認日／

動画視聴日／

演習取組日／

学習目標

- 1) 専門職を目指す学生世代と高齢者の多様性を知る
- 2) 生活と社会的背景の違う若者と高齢者とが相互に分かり合えるための地域性の配慮・尊重について理解する
- 3) 若者と高齢者、地域性の尊重の視点から、この世代間交流におけるメリット・デメリットを整理する

動画のポイント



- ・ 学生が普段の学生同士の会話で使っている言葉や話題では、高齢者とコミュニケーションをとることは難しい。そこで学生は、学生文化を通した自然な会話から、高齢者の生活に根づいた主訴・要望を聴き出そうとしている。
- ・ 方言、地域性のある話題を用いて会話を行い、親近感を醸成する。一対一の信頼、親近感がグループにも反映され、にぎやかなレクリエーションが地域性を尊重した中で、インクルーシブに展開される。

キーワードとその意味

方言、地域性、個人の尊重

方言・・・言葉のダイバーシティである。外国の文化や言葉と同様、分かったふりをして聞き流すことは、その言葉をエクスクルージョンすることにつながる。

地域性・・・都会、地方、田舎、農山村、様々な表現で類型化される私たちの暮らす街。しかし、私たち一人ひとりの暮らしを振り返る時、その類型は無意味かも。ここでいう地域性とは、社会的に分析する視点ではなく、暮らしに密着した暮ら方の違いを尊重する視点を持つ性質のことである。

個人の尊重・・・異世代間交流は、子どもと高齢者のみではない。若者や熟年世代も含めた全世代が対象である。若者を排除しない異世代交流が、文化や伝統を次世代に醸成する宝となるだろう。

解説・・・学んで欲しいこと

動画は、医療・福祉資格養成校での異世代間交流の事例紹介。動画で登場した若者たちは4年生理学療法学科の学生。彼女らは1年生時より3学年含めた縦割りグループで、介護予防教室やデイサービスなどを体験。

入学したばかりの1年生の目標は、高齢者とのコミュニケーションに慣れること。2年生は、更なるコミュニケーションスキルの向上をはかる。日常会話の中から対象者の「主訴・要望」を意図して聞き出すこと。3年生の目標は、より円滑に「主訴・要望」

を聴取できるようになること。本動画では患者様や利用者様から、円滑に「主訴・要望」を聴取するための多様なコミュニケーション場면을再現し、ダイバーシティの課題を実像化した。

ワーク

＜ワーク１＞

鰯は出世魚。成長ともに呼び名が変わる。あなたのお住まいの地域で、ブリは成長（≡大きさと）に伴い、何という名称に変化していきますか？
あなたの街の「鰯（ブリ）の呼び名」を挙げてみましょう。

(例)富山県氷見市

コズクラ(小)	フクラギ(中の小)	ガンドブリ(中の大)	ブリ(大)
---------	-----------	------------	-------

お住まいの地域

--

＜ワーク２＞

動画には、いくつか方言が出てきます。富山県氷見市と標準語を例示します。
表の右側に、あなたが紹介したい「方言」を書きとめてください。

富山県氷見市	標準語	お住まいの地域（ ）
えんぞろ	側溝	
かやる	転倒する	
ばんぼ	おんぶ	

＜ワーク３＞

次の表を参考に、あなた自身の「文化」を振り返って、あなたの知らないあなたらしさを発見し、周りの方々に話してみましょう。

	自分(若者)	対象者(高齢者)	注意すべきこと
言葉使い (方言)	「若者言葉」も話すが、方言も話す	同じ方言だが訛りがきつい	違和感がなく、普段通りに会話ができる
トピックス (話題)	令和の流行ソング	昭和の歌謡曲	テンポ・リズム・ノリが異なる
土地柄 (県民性・地域性)	意識したことがない	地元に対して誇りを持っている	地元意識がある⇔ない (衝突の原因にも)
習慣 (生活スタイル)	朝はギリギリまで寝ていた い	早起きして朝刊を必ず 読む	生活リズムが合わない
嗜好 (好きなこと)	スマートフォン、SNS	相撲中継、落語	使用機材が異なる (TV・ラジオ⇔スマートフ ォン・PC)

	あなたの場合		
	自分（ ）	対象者（ ）	注意すべきこと
言葉使い （方言）			
トピックス （話題）			
土地柄 （県民性・地域性）			
習慣 （生活スタイル）			
嗜好 （好きなこと）			

※ 対象者：あなたがコミュニケーションをとる相手（園児・その家族、利用者・その家族、職場の同僚など）

<ワーク4>

あなたの立場から、地域性の尊重の視点からみた世代間交流におけるメリット（左側の枠）・デメリット（右側の枠）を書き出してみましょう



新しい発見（何か気づいた点をメモしておきましょう）

異世代交流実践

4節 実践のためのチェックリスト

確認日／

動画視聴日／

演習取組日／

学習目標

- 1) 交流プログラム立案にあたって必要なことを具体的に考えることができる
- 2) 交流プログラムを実践するための準備を具体的に考えることができる
- 3) 自分の職場で実践する時のイメージがもてる

動画のポイント



- 1) 実践が楽しく前向きに行えるような気持ちになることができる。
- 2) 交流プログラム立案にあたって必要なことや準備すべきことについて具体的に考えることができるようになる。
- 3) 実践にうつすための手立てのイメージを具体的にもつことができる。

キーワードとその意味

プログラム立案、具体策、準備力、楽しみながら考える、イメージ

解説・・・学んで欲しいこと

実践のための準備が前向きに行えるように、事前準備や必要事項について具体的にイメージできるようにし、自分の職場でも実践できるイメージを作っていく。

ワーク

<ワーク1>

自分の施設で交流に取り組みたいと考え、同僚や上司、協力者に話そうとした時に何を準備する必要があると考えましたか。

<ワーク2>

では、交流プログラムを実践するにあたって貴方が考えた一番必要なことは何ですか。

思いの実現シート

今日の日付

記入者

テーマ：

【なぜ、この異世代交流を行ないたいと思ったのか(目的)】

- ・
- ・
- ・
- ・

【こんなことをやってみたい(内容)】

- ・
- ・
- ・
- ・

【具体的な内容(企画)】

- ・ 交流対象者： 参加人数：
- ・ 場所：
- ・ イメージ：
- ・ 協力者(一緒に企画したい人)：

【各々の内容】

- ①
- ・
- ・
- ②
- ・
- ・
- ③
- ・
- ・
- ④
- ・
- ・

【スケジュール】 年 月 頃に開催予定

	月～ 月	月～ 月	月～ 月
企画	→		
準備		→	
告知			→

【必要経費】

- ・
- ・
- ・

合計：

※ 期日： いっまでに予算化する等

思いの確認シート

シートづくり参加者：

記入日：

記入者：

項目	自分ができている		チームができている		上司ができている		自分	チーム	上司
	確認欄	まとめてみる	<input type="checkbox"/>	チームメンバーの選出	<input type="checkbox"/>	相談期日 〇月〇日			
記入例									
企画書の立案									
①	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
②	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
③	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
④	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
⑤	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
⑥	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
⑦	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
⑧	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
⑨	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
⑩	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
事前準備									
当日									
事後（次回改善点）									

実践するために大切な視点とは



新しい発見（何か気づいた点をメモしておきましょう）



異世代交流実践

5節 クイズで分かる「リスク管理」のプロセス

確認日／

動画視聴日／

演習取組日／

学習目標

- 1) 異世代間交流をするうえでのリスク管理のプロセスについて理解を深める
- 2) リスク管理を行い、異世代間交流の実践ができるようになる

動画のポイント



リスク管理について学び、異世代間交流に取り組む上での課題、留意事項、プログラム作成のポイントの理解を深め、実践する力を身につける

キーワードとその意味

リスク管理

①リスクの特定	考えられるリスクを全て洗い出します
②リスクの分析・評価	リスクが与える影響を分析します。指標として「発生の可能性」と「影響度」を使用し、「リスク受容」なのか、「リスク軽減」なのか、「リスク共有」なのか、「リスク回避」なのかを確認し、リスク対応の優先順位を考えます。
③リスクへの対応	リスクの分析をもとに、リスクに対しての対応を考えます。視点としては、予防的対策（予防するための対策）、発見的対策（発見するための対策）、対処的対策（万が一事故が発生した後を意識した対策）があります。

葛藤、課題、準備、ルール

解 説・・・学んで欲しいこと

- 1) リスク管理のプロセスについての理解を深める。①リスクの特定、②リスクの分析・評価、③リスクへの対応について。
- 2) 異世代間交流を実践する際に出てくる課題、留意点に気づき、リスクを予測したうえで、対応していくための方法を考え、自分の職場で実践できるイメージを作っていく。

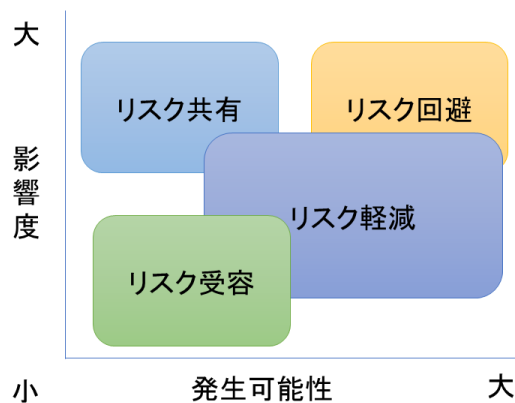
ワーク

<ワーク1>

- ①自分の施設で取り組んでみたい異世代間交流はどのような内容ですか？
【プログラム作成】（※第4節で作成した計画を入れましょう）

②自分の施設で異世代間交流プログラムを実施するうえで一番心配なリスクを記入しましょう。【リスクの特定】

③一番心配なリスクがどこに位置づいているか○をつけて評価しましょう。【リスクの分析・評価】



【フレームワーク 1】
勝俣良介
『世界一わかりやすいリスクマネジメント
集中講座』
ニュートンコンサルティング
2017 年 11 月 P68 より筆者作成

<ワーク2>

①一番心配なリスクに対してどのように対応すればよいかを仲間と話し合ってください。【リスクの対応】

※視点として予防的対策・発見的対策・対処的対策を使用して考えるとよいでしょう。



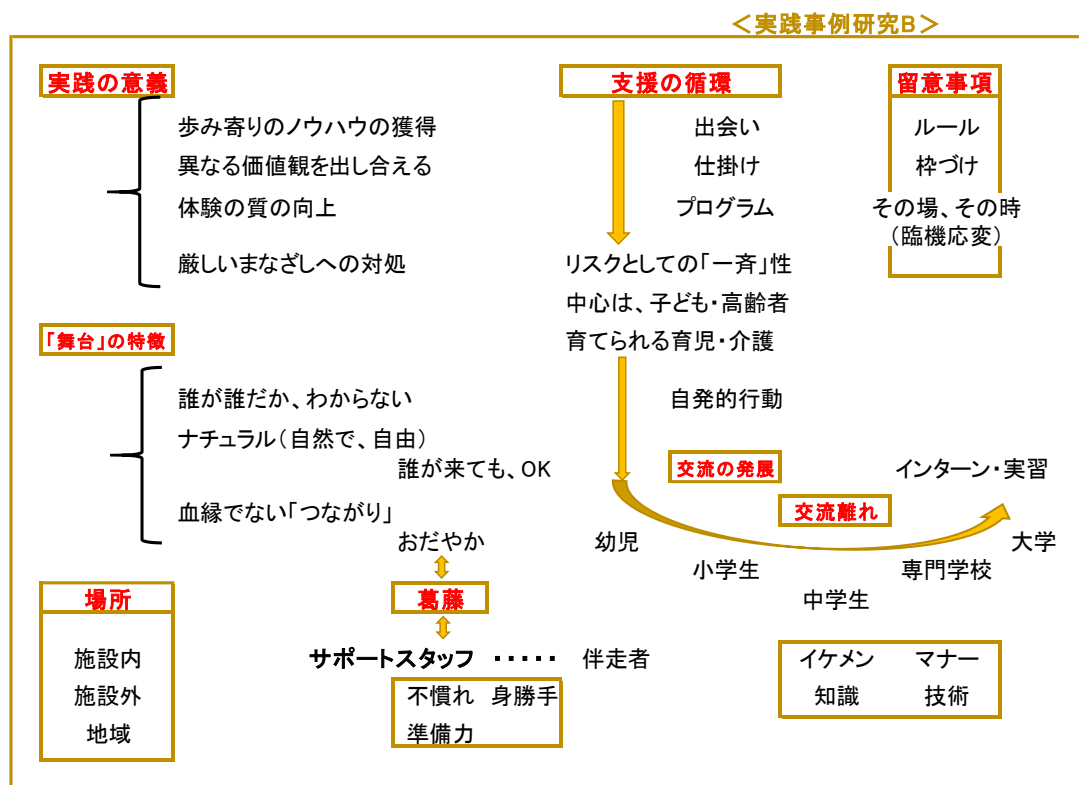
新しい発見（何か気づいた点をメモしておきましょう）

参考文献：勝俣 良介『世界一わかり
やすい リスクマネジメント集中講
座』ニュートンコンサルティング
2017 年 11 月

まとめ

この講座で皆さんに体感し、考えて頂いたのは、第1に異世代交流の「広がり！」と「深さ！」です。第2にどのような点に留意したら、異世代交流が「私にもできる」と、納得してもらうことです。

異世代交流の「広がり」と「深さ」を可視化してみると、次の構造図のようになります。この構造図のどの部分が「腑に落ちたのか」書き込んでみましょう。



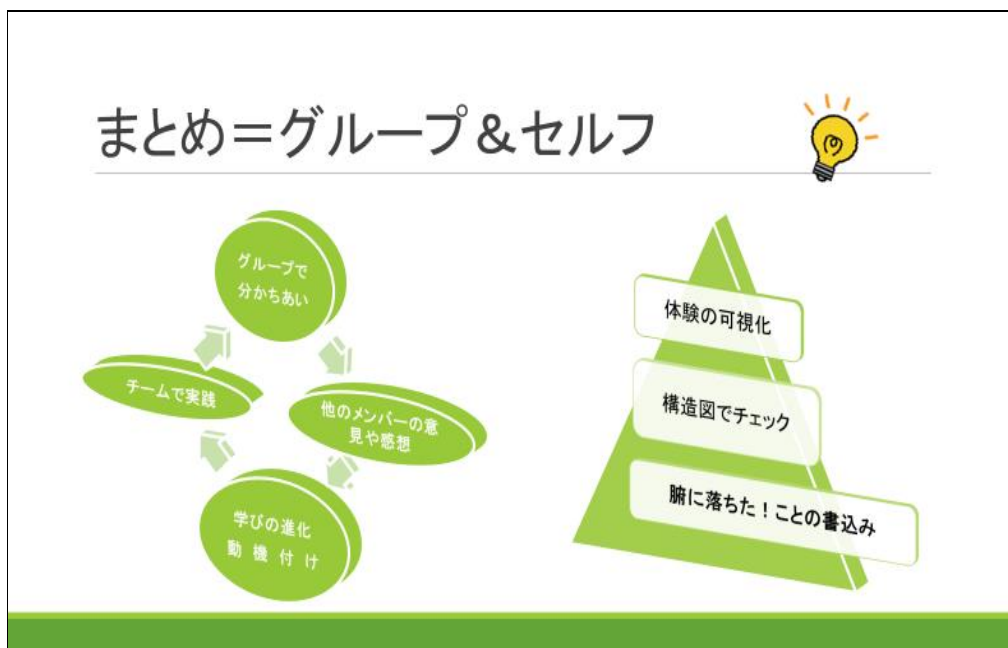
自分自身で気づいたこと、グループワークなどを通して聞いた、他のメンバーの意見や感想から、あなたの中で深められたことをメモしてみましょう。



学びの自己チェック

学びの到達点を確認するプロセスの最後は、ふりかえりと分かち合いです。

「新しい発見」は、一人ひとりで異なり、まさに多様です、その多様さを自らの中に「府に落とし」、あなたのダイバーシティ感覚を深化させてください。



さて、あなたは今、どこまで来たのかな？

領域：異世代間交流、自己チェック									
到達規準		十分できた		まあできた		まだ不十分		不十分	
理解	・異世代間交流の多様な形、意義を理解する。	2/1		/		/		/	
	・異世代間交流実践のコツと留意事項を知る。	/		/		/		/	
	・異世代間交流がもたらす、参加者・対象者並びに職員の変化を知る。	/		/		/		/	
実践	・効果的に実践するために必要なことを検討し、行動に移すための計画を練ることができる。	/		/		/		/	
	・異世代間交流を効果的、継続的に実践できるための環境・背景を理解する。	/		/		/		/	
	・自分の職場で実践するために必要なことを点検し、今から始められることを考えられる。	/		/		/		/	
	・実践のための留意事項をマニュアル化し、職場に紹介することができる。	/		/		/		/	

チェックした日付を記入する

自己評価の理由や気づいたこと

実証講座としては、以下のように SNS を用いて、アンケートに答えてもらうという形式をとりました。

★本日は受講頂き、ありがとうございました★



アンケートご協力のお願い

プログラムの評価検証・今後の改善のため、受講前・受講後アンケートへのご協力をお願い致します。

受講前アンケートの回答はこちらから
(受講者の皆様用)



受講後アンケートの回答はこちらから
(受講者の皆様用)



リカレント教育としては、「事後ワーク」の結果を SNS に提出してもらうことを想定しています。

文部科学省委託事業 『専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト』
介護・保育分野における異文化間異世代間の交流促進のための
分野横断型リカレント教育プログラムの開発(2019～2021 年度)

2021 年版
ダイバーシティ・マイスター・ワークブック
領域「異世代間交流プログラム」編

学校法人敬心学園 職業教育研究開発センター

発行年月日	令和4年2月22日
発行	小林 光俊（事業代表者） 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場2-16-6 宇田川ビル6階 学校法人敬心学園 電話 03-3200-9074 FAX 03-3200-9088
編著	異世代間交流部会
監修	川廷 宗之（事業責任者）
印刷・製本	城島印刷株式会社 〒810-0012 福岡市中央区白金2-9-6 電話 092-531-7102 FAX 092-524-4411
